



地域・家庭・学校を結ぶ学校だより

高台

<https://www.ota-school.ed.jp/magomehigashi-js>



令和7年2月3日
令和6年度第10号
大田区立馬込東中学校

<ラグビーが生んだ世界的指揮者> 一生徒のみなさんへー

校長 松井 圭一

23日に2年生のオーケストラ鑑賞教室に同行しました。

そこで、今回の「高台」はオーケストラ繋がりのお話をします。世界的にとっても有名な指揮者のことをみなさんにも少くらい知っておいてもらいたと思います。

過日偶然聴いていたラジオ番組で、小澤征爾（おざわ せいじ）さんの弟でエッセイストの幹雄（みきお）さんのお話を伺う機会を得ました。幹雄さんは四人兄弟の末っ子で、長兄が彫刻家の克己（かつみ）さん、次男がドイツ文学者の俊夫（としお）さん、そして三男が世界的に有名な指揮者である小澤征爾さんです。

「おざわ せいじ」というお名前だけで、「ああ、あの方か」とピンとこない人でも、ネットなどで顔の画像を見れば、「ああ、この方か」となる人が多いのではないのでしょうか。

小澤征爾さんは、群馬交響楽団で指揮を始め、日本フィルハーモニー（のち新日本フィルハーモニー）、ニューヨーク・フィルハーモニック、シカゴ交響楽団、トロント交響楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団等で指揮を執り、ボストン交響楽団では第13代の音楽監督に就任されています。正に世界的な指揮者として大きな成果を上げ、その名を音楽史に刻んだ方です。

しかし、小澤征爾さんははじめから指揮者になろうと決めていたわけではありません。

幼い頃、長兄の克己さんからアコーディオンとピアノの手ほどきを受けた征爾さんの才能を感じた小澤家では本格的にピアノを学ばせようと、横浜の白楽に住む親戚から安価でアップライトピアノを譲り受け、克己さんと俊夫さんがリヤカーでピアノを受け取りに行き、最終日にはお父さまも途中まで迎えに行き3日掛けて立川まで運んだそうです。

本格的にピアノを習っていた征爾さんはピアニストを志していましたが、よほどラグビーが好きだったようで、中学校の部活では保護者に内緒でラグビー部に所属。雨中の試合のスクラムで右手人差し指を骨折し、ピアニストの道を断念することになったのです。

さて、みなさんならこんな時、どんな思いを抱きますか。

<ラグビーをやらなければよかったという後悔>

<雨さえ降らなければよかったのという悔しさ>

<ピアニストになるために日々頑張ってきたのに残念という言葉では言い表せないくらいの無念>

<幼い頃から自分のためにピアノまで用意してくれた家族に対して申し訳ない思い>

<これから先のことが全く考えられない虚しさ>

<もうどうにでもなれという自暴自棄>……………等々

ご本人に直接伺ったわけではないので、想像しかないのですが、上記以外の感情も含めてたくさんの思いがごちゃ混ぜになって胸の中を渦巻いたのもしれません。

ただ、間違いなく言えることはそれら全てがマイナスの感情であり、征爾さんは平常心ではいられなかったであろうということです。

そんな時、「ピアノだけが音楽じゃないよ。」という言葉が掛けてもらい、高校進学と同時に著名な指揮者の指揮教室に入門し、本格的に指揮者への道を歩み始めたそうです。

<人間万事塞翁が馬>という故事成語がありますが、人間の幸不幸なんてわからないものですね。ラグビーによる怪我がなければ、世界に名を轟かせた指揮者 小澤征爾さんは誕生しなかったわけです。でも、怪我がなければ、著名なピアニストになっていらっしやっただけかもしれません。こればかりは誰にもわかりませんが…………

そんな小澤征爾さんの一周忌は今週2月6日です。

<梅の花が咲きました> 一生徒・保護者・地域の皆様へー

校長室から見える馬東の梅の木々。いつ花が咲くのかと、1月中旬から、日に何度も確認して気にとめていました。ようやく咲いたのが、28日。朝の内は咲いていなかったのに昼頃にくつもの蕾が開いているのを発見し、小さな喜びを感じました。

日に日に陽が延びて、陽ざしも柔らかくなり始め、きょう3日は立春です。

< 梅一輪 一輪ほどの 暖かさ 服部 嵐雪 >

保護者・地域の皆様にも馬東の春の兆しをご覧いただき、ころまで温まっていたいただければ幸いです。

< 百人一首大会 >

1月17日（金）に1年生の百人一首大会が実施されました。

「ちらし」による個人戦が行われ、この日まで準備してきた成果が見られ、寒さに負けない、白熱した大会となりました。係生徒の事前準備もあり、大会運営もスムーズにできました。

当日、観戦いただきました保護者の皆様、寒い中ご来校いただきましてありがとうございました。



< ものづくり教育・学習フォーラム >

1月18日（土）産業プラザPiOにて、ものづくり教育・学習フォーラムが開催されました。本校は今年度、発表校として、華道部の活動報告と家庭科の授業で製作しているソーラン節のはっぴ作りについて発表しました。たくさんの来場者の前で緊張したと思いますが、堂々とした発表で華道パフォーマンスやソーラン節を入れた発表で、この日一番の拍手がおきていました。全校生徒にも朝礼で発表してもらおう予定です。



< 学校給食週間について >

2月3日（月）の全校朝礼で本校、野村栄養士による学校給食週間についてのお話がありました。大田区では昭和27年頃、嶺町小学校の調理員さんが、流行性の風邪で学校を休んでいた児童のために、時間が経って硬くて冷たいパンを美味しくできないかと、油で揚げて砂糖をまぶして届けたところ好評だったため、人気メニューとなり全国へ広まったと言われています。小学校の日誌では、献立に登場したのは昭和29年「六郷小学校」の記録が残っています。また、大森は海苔の一大生産地だったことで、大田区では2月6日を海苔の日として給食で海苔の献立を提供しています。そして、平成7年ごろ「たこ焼き」のリクエストから生まれた『たこぺたん』は馬込東中発祥で当時の栄養士さんが考案され、区内でも人気のメニューになっています。「給食」を通じて大田区の魅力を考えるきっかけになってくれればと思います。

